

2014年度群馬大学教育学部社会専攻推薦入試

小論文問題

合図があるまで開けないでください。

資料の文章を読み、次の間に答えなさい。

- (1) 下線部Aの問題について筆者自身はどう考えているのかを、200字程度で書きなさい。
- (2) 筆者が下線部Bのように論じている現代において、①メディアにはどのような事態を引き起こす危険性があるのか、具体例（現実起こったことでも、起こりうるとあなたが考えることでもよい）を挙げながら、あなたの考えを書きなさい。また、②個人はメディアとどう向き合うべきか、①を踏まえて、あなたの考えを書きなさい。（①と②を合わせて600字程度）

ファシズムという政治体制は、20世紀より前には歴史に存在していない。ドイツとイタリア、そして日本という枢軸国を中心にファシズムが同時多発的に生まれた時期は、誕生したばかりの映画とラジオが広まり始めた1910～30年代にびたりと符合する。

きっとあなたも一度や二度は耳にしたことがあると思うけれど、20世紀という時代は、しばしば「戦争の世紀」と呼称される。考えたら不思議だ。A これほどに文明が発達して、さらには国際連盟と国際連合という二つの国際平和機構が歴史上初めて創設されて、さらには情報の流通が圧倒的に促進された世紀なのに、なぜ戦争はなくなるどころか増えたのだろうか？

ナチスのナンバー2でヒトラーからは後継者として指名されたこともあるヘルマン・ゲーリングは、ナチスの戦争犯罪を裁いたニュルンベルク裁判の被告席で、「他国から攻撃されかけていると国民の危機を煽れば戦争は簡単に起きる」といった意味のことを語っている。

悔しいが正しい。人は脅威に弱い。近代の戦争のほとんどは、侵略ではなく自衛の意識で始まっている。つまり過剰防衛。先制攻撃をしなければ自分たちがやられるとの危機管理意識が、戦争勃発の際の最も重要な大義であり、戦争継続の燃料なのだ。

「国民の危機を煽る」ためには媒体が必要となる。つまりメディア。これを言い換えれば、新聞やラジオ、映画などのマスメディアがあるからこそプロパガンダ（情報宣伝）が可能となる。そしてこれはファシズム国家だけではなく、ルーズベルト大統領がファシズムの脅威をラジオで定期的に応答したアメリカも含めて、連合国側も事情は同様だ（もちろん結果として、ファシズムは滅んで正解だったと僕は思うけれど）。

とにかくファシズムは滅び、戦争は終わった。しかし映画（映像メディア）とラジオ（放送メディア）は生き残った。それどころか戦後に融合した。テレビジョンという画期的なメディアはこうして誕生する。その後もテレビは進化を続け、今では世界の裏側で起きていることが、リアルタイムな画像と音声で見たり聞いたりすることができるようになった。つまりB 20世紀初頭の段階など比べものにならないほどに、メディアの危険性は高まっている。

ヒトラーやムソリーニのような独裁者が現れないかぎりは大丈夫。もしもあなたがそ

う思っているのならそれは違う。独裁者や軍事政権に強制されなくとも、メディアは自ら不安や恐怖を訴えて危機を煽る。なぜなら不安や恐怖を煽るほうが、視聴率や部数は上がるからだ。メディアのほとんどは営利企業だ。つまり視聴率や部数は売り上げに相当する。いわば企業の存在理由だ。これを追うなどいっても無理なこと。つまりメディアは、そもそもが危機を煽るように宿命づけられた存在なのだ。

【出典】森 達也『視点をずらす思考術』（講談社、2008年）

*趣旨を損なわない範囲で、字句を一部修正した。